* * * *

東インドネシアのモルッカ諸島にはシケチシダ属（メシダ科）が分布することは知られていなかったが，セラム島植物調査において2種を採集したので報告する。*Cornopteris philippinensis* はこれまでミンダナオからのみ記録され，標本も少なく十分理解されていなかった種である。大きさは変異が著しいが，根茎，葉とくに先端の形，小羽片の切れ込みなどからみて，ナンゴクシケチシダ *C. opaca* に近い種である。本種は正常な胞子をもち，ナンゴクシケチシダとホソバシケチシダ *C. banajaoensis* の種間雑種と推定されるヤクシケチシダ *C. masachikana* とは明らかに異なる類縁を示す独立種である。新種 *C. seramensis* はホソバシケチシダに非常によく似ているが，根茎が 25 cm かそれ以上も長く匍匐する点で異なる。本種はホソバシケチシダからの派生種である。最近，秦・王（1982）はイッポンワラビ属 *Neoathyrium* をたてた。彼らがとりあげた指標形質（根茎，葉柄基部，葉形，毛，染色体数など）はシケチシダ属と共通するか，せいぜい種差を示すものであることが，セラム島の2種，とくに *C. seramensis* を考慮に入れるとますますはっきりしてくる。イッポンワラビ *C. crenulatoserrulata* はシケチシダ *C. decurrenti-alata* やハコネシケチシダ *C. christenseniana* の近縁種である。

□江東区（編）：**続江東区の野草** 207pp. 1986. 江東区，東京. ¥1,000. 1984年に出版されたものの続編で，カラー写真を分類順に配置し，浅井康宏，飯泉 優，加藤僖重，山田隆彦の四氏が解説しているほか，ところどころに有用植物，帰化植物などについての解説がある。巻末に江東区の野草リストがあり，これによると 653 種類のうち前書で114種類，本書で175種類が収録されたことになる。アレチヒナユリなる新和名が公表されている。頁下端の色分けは植物群と解説頁の区分を示すものらしいが，説明がないのでなにか新機軸なのかもしれない。（金井弘夫）

□Kuwahara, Y.: **The Metzgeriaceae of the neotropics** 254 pp. 1986. J. Cramer, Stuttgart. 著者の桑原幸信博士は永年フタマタゴケ科の分類学的研究を進められていたが，今回上記のように新熱帯の種類をモノグラフ的に取りまとめられた。本書は第1部 “The genus *Metzgeria* in the tropical Andes” 及び第2部 “A survey of the family Metzgeriaceae in the west Indies, Mexico, and Central America” の2部からなる。各々の地域の種類が記載と図を伴なって取扱われている。必ずしも2部構成にしなくても，全体を取りまとめて一つのモノグラフとした方が利用する立場からは便利であろう。（井上 浩）